

志木小学校だより

平成30年度5月号



学校地域教育目標

あいさつのできる子

思いやりのある子

地域を大切にする子

意欲的に学ぶ子

5/1児童数 721名

ピグマリオン効果！

校長 坂口 栄二



敷島神社の田子山富士塚

新学期が始まって早1ヶ月。子供たちも学校生活のリズムをつかみ、楽しい学校生活を過ごしています。ただ、疲れもたまってきているようで体調を崩している子供もいるようです。連休もありますので、リフレッシュして今月も元気に過ごしてほしいと思います。

保護者の皆様には、お子様の体調管理等にご協力いただければと思います。

思いは叶う

これは4月号に書かせていただいた言葉です。思いや願いを持ち、**日々努力していれば、その思いや願いは実現する**といわれます。それなので、子供たちには、目標もなくなんとなく毎日を過ごすのではなく、**思いや願いを持って充実した毎日を過ごしてほしい**と思っています。

そこで、1学期の始業式で、子供たちに**毎日登校する前に**「今日〇〇をしよう」とか「〇〇を頑張ろう」などと**目標を決めてくる**ように話しました。ご家族でも登校前や帰宅後に学校の話をしていただくと、子供たちも目標を決めやすいと思います。ご協力をお願いいたします。

ピグマリオン効果

これは、教育心理学における心理的行動の1つで、アメリカの教育心理学者ローゼンタール氏が行った実験に由来するものです。教師期待効果とも呼ばれています。

その実験では、まず「成績の優秀な子供たちを集めたクラス」と「成績の悪い子供たちを集めたクラス」を作りました。

そして、成績の優秀な子供たちのクラスの担任には「あなたが担当するクラスは成績の悪い子供たちのクラスです」と伝えました。逆に成績の悪い子供たちのクラスの担任には「あなたの担当するクラスは成績の良い子供たちのクラスです」と伝えました。

すると、「**もともと成績の良かった子供たちのクラス**」の成績は下がり、「**もともと成績の悪かった子供たちのクラス**」の成績は上がったのでした。

この実験から、「**人は期待されたとおりの成果を出す傾向がある**」という結論が導かれました。つまり、子供たちは、教師が期待すればするほど、自分にかけてられる期待を敏感に感じて、その期待通りの成果を出してくれるということです。ただし、**過剰な期待はかえって学習意欲をそぐ**結果も出ていますので注意が必要です。

学校では、**子供たちは様々な困難に打ち勝つ力と無限の可能性をもっている**ということ信じ、様々な教育活動を展開して参ります。家庭・地域の皆様も「志木小学校の子供たちはできるよい子供たちだ」と期待して、ご支援・ご協力をお願いいたします。

